

月刊 **みんぱく** 8月号

2024

特集

ワンダー！客家

巻頭エッセイ 與那覇潤

客家の暮らしが日本を癒す？

よなは じゅん
與那覇潤
 評論家

プロフィール
 1979年神奈川県生まれ。2007年に東京大学大学院で博士号取得後、17年まで公立大学准教授。当時の専門は日本近代史。20年、うつと離職の体験を踏まえた『心を病んだらいけないの？』（齋藤環氏と共著、新潮選書）で小林秀雄賞。代表作に『中国化する日本』（文春文庫）、『平成史』（文藝春秋）など。最新刊は『教養としての文明論』（呉座勇一氏と共著、ビジネス社）。

日 本に必要なのは「円楼」だと、わりと本気で思っている。

七年前、勤めていた地方の大学を辞めて、東京で部屋を探した。驚いたのは二〜三階建てのシングル向けアパートでも、築浅なら完全オートロックの物件が多いこと。建物全体が閉じられた立方体の形状で、壁面の入口扉はパスコードでしか開かない。つまり、誰でも入れるエントランスの部分がない。

「タワマン」を象徴する六本木ヒルズレジデンスの竣工は二〇〇三年。続く数年間、格差社会への批判とも相まって「ゲーテッド・シティ」の当否が論じられた季節が懐かしい。いつの間にかゲーテッド（城門を閉ざす）された空間に籠る暮らしは、特に富裕層ではない都市部の単身者にもあたり前になってきた。

ややこしいことに、外見からそうした物件かなと思えば札を見ると、実は個人の家という例も多い。元々あった自邸を建て替えたのかなと思うけど、軒先がなくなり外壁でご近所と隔離される点は、ゲーテッド・アパートと変わらない。

そんな感じが「客家が暮らす円楼みたいだ」と、ふと思った。正確には、形を考えると方形土楼だろうけど。

菊池秀明『越境の中国史』（講談社選書メチエ）に

よると、華南における客家は移住民として後発だったため、危険な辺境に追いやられ迫害された。だからこそ外敵に抗して結束するために、三階分はある高い壁で包まれた住居に集団で住んだわけだ。

つまり周囲と隔絶した城塞でも、内部の住民どうしでは相互扶助のコミュニティがあった。装いの似た東京のオートロック物件には、それが無い。家族で一棟を買い切るお金持ちの私邸にしても、分厚い壁でお隣とのつきあい絶たれた姿はどこか、寂しそうだ。

だからぼくはいま「円楼」があればなんと、強く思う。茂木計一郎・片山和俊『客家民居の世界』（風土社）が描くように、ドーナツ状の円楼の中庭は、井戸や厩舎のある交流スペースだった。炊事洗濯をしながら、声をかけあい談笑する。そうした日常の実践があつてこそ、いざ「籠城」となった時も協力できる。

いまの日本のゲーテッド・コミュニティは、城壁の内側にすら信頼がない。先日の新型コロナウイルス禍でも、タワマンの住民どうしが「感染者が住んでいないか」を疑いあう話題ばかりを耳にした。

孤独が広がる社会で必要なのは、血縁以外の同族意識でつながる「客家」かもしれない。そんなことをずつと、東京に来てから考えている。

月刊 みんな

2024年 8月号

表紙

獅子舞は「邪を払い、福をよびこむ」芸能として中国で親しまれている。日本に住む客家も結婚式や文化交流イベントのときに獅子舞をする。表紙は茨城県在住の客家から寄贈された獅子頭である（H0328069）

*本文中、撮影者・提供者を記載していない写真は執筆者の撮影・提供によるものです。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

1 巻頭エッセイ
客家の暮らしが日本を癒す？
 與那覇潤

特集 ワンダー！ 客家

- 2 日本とつながる客家文化
河合 洋尚
- 4 土楼に住んでみる
小林 宏至
- 6 ヨモギ香る祖母の艾版
范 智盈
- 8 客家音楽家と日本
田井 みのり
- 9 日本人の祖先は客家？
奈良 雅史
- 10 はっか味
- 12 みんなく回覧板

- 14 推しコレ図鑑
哀愁漂うウズベキスタンの音色
寺村 裕史
- 16 もっと、みんなく
ビデオテークをきわめる！
黒田 賢治
- 17 世界の「乗っちゃえ！」
ヒマラヤを疾走する乗合ジープ
古川 不可知
- 18 だって調査だもの
9.11午前 ペンタゴン
田中 雅一
- 20 ばくっ！とフィルめし
ロンドンのユダヤ人街でのひとり飯
中西 恭子
- 21 今月号の地図・編集後記



左:客家花布。テーブルクロスなどでも使われる



広東省五華県の刺身。「殺菌」のため酢に漬け、ネギ、醤油、パクチーなどと食す(中国、2009年)

特集 ワンダー! 客家

はっか……薄荷? ハッカー? それとも発火?
客家がすぐにピンと来る人は少ないだろう
だが、みんな日本でもこんなところ、あんなところで客家文化を
じつは目にしたり、耳にしたり、口にしたりしている
知れば知るほど
客家の世界って、ワンダー!

みんなく創設50周年記念企画展

客家と日本

—華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史

会期: 2024年9月5日(木)~12月3日(火)

場所: 本館2階 企画展示場



日本とつながる客家文化

かわい ひろなお
河合 洋尚

東京都立大学 准教授

ハッカ?
わたしが客家(ハッカ)ということ
ばを初めて聞いたのは二〇
〇〇年秋。卒業論文を書く
ため兵庫県の華僑(ハッカ)社会を
調査していたときであった。
当時、わたしがもつともよ
くお話を聞いた華僑の方が、



第五回世界客家大会(東京・大阪開催)で記念撮影をする日本の客家(1980年、周子秋提供)

「わたしはハッカだ」「これはハッカの文化だ」としばしば口にしていた。ハッカ? 当時のわたしがこのことを聞いて真っ先に頭に浮かんだ漢字は「薄荷」や「発火」であった。今でこそ中学校の英語教材でとりあげられるようになった客家であるが、二〇〇〇年当時は普通の大学生にはまるで聞きなれないことばであった。わたしは大学院に進学し中国を研究対象にして初めて、客家が中国最大の民族である漢族の一支系であること、世界各地に移住し華僑(ハッカ)人として暮らす「流浪の民」でもあることを知った。

東洋のユダヤ人

客家は、中国東南部の山岳地帯を主要な居住地としているが、その一部は、特に一八世紀以降から世界各地に移住しはじめた。中国本土を除くと、客家が相対的に多く居住するのは香港、台湾と東南アジア各地である。ただし南半球に住む華僑(ハッカ)人のなか

にも客家が少なくない。シンガポールの初代首相リークワンユー、タイの元首相であるタクシンとインラックの兄妹、台湾で総統になった李登輝と蔡英文、ガイアナの初代大統領アーサー・チュンらも客家であるといわれる。世界の各界で多くの成功者を輩出していることから、客家は「東洋のユダヤ人」とよばれることもある。

じみのある関西のいくつかの商業施設や福祉施設などが客家の経営であったことだ。民博の徒歩圏内にも客家経営の病院があった。日本の施設名を付けているため、そうとは知らずに通り過ぎていたのである。客家は我々の身近なところにいる。

餅、刺身、大阪式

客家は、中国の他の漢族や少数民族と異なる、一風変わった文化をもつといわれる。ユネスコの世界遺産に登録される円楼(えんろう)の典型例である。客家の文化というところの異質性がとりあげられる傾向が強いが、じつは日本と似ているところも少なくない。



企画展で展示される「大阪式煙楼」の模型(台湾客家文化発展センター提供)

たとえば、客家の料理には日本のきなこ餅やヨモギ餅と似たものもあるし、中国本土の客家地域には刺身を食す習慣すら伝統にある。他方で、日本は一八九五年から半世紀のあいだ、台湾を植民地とした。そのため、台湾の客家の生活文化は日本の影響を少なからず受けてきた。台湾の客家地域には「大阪式煙楼」とよばれるタバコ乾燥小屋が点在しているし、客家の音楽には日本由来の音階が含まれる。いまや台湾客家のアイコンのひとつとなっている花布(かふ)にも日本のデザインがとりいれられている。

本特集は、そのような客家文化と日本のかかわりについて、建築、食、音楽、信仰の側面から見えていくことにしよう。

上: 上空から見た初溪の円楼(中国 福建省 永定県、2005年)

土楼に住んでみる

小林 宏至

山口大学 准教授

土楼と日本社会

客家建築といっても、台湾客家(三合院)、梅州客家(围屋)、河源客家(四角楼)など、いろいろなタイプがある。だが日本でもっともよく知られているのは、やはり円楼であろう。福建省にある円楼は客家地域と閩南地域にまたがって点在している。それらは二〇〇八年七月にユネスコの世界文化遺産に登録され、各種メディア(マスメディアやSNSなど)でも、ひろくとりあげられてきた。

じつは土楼と日本は浅からぬ関係にある。改革開放直後の一九八〇年代から、多くの研究者、メディア関係者、旅行者が土楼一帯を訪れている。特に二〇〇〇年代ごろからは、日本からの来訪者が多くなった。そのため現地の客家人たちが一生懸命、日本語を学習していたほどである。わたしも現地の人から「日本語学習用」のテープレコーダーを



頼まれ、中国語と日本語を録音して渡した記憶がある。

大家族が暮らす「家」

どうして日本社会は土楼という建物にそれほど魅せられたのであろうか。もちろん建築物としての魅力もさることながら、失われた大家族への憧憬がそこにあったのかもしれない(実際、当時の建築学の雑誌においても、そのような指摘がなされている)。

日本社会では二〇世紀後半から二一世紀にかけて、世帯の構成人数はどんどん減少し、



土楼前で行人から買ったフルーツのおすそわけ(2009年11月9日)



寒い日にもらう、あたたかい蒸かし芋(2009年11月6日)



欠けた茶碗に盛られた土楼の朝ごはん(2010年5月31日)



消費しきれず溜まっていく、宴のもらいタバコ(2010年2月13日)

の系譜に基づいて、土楼内の各区画を所有していた。

「ノイズ」に満ちた暮らし

土楼に住んでみて感じるのは、誰がどこにいて何をしているのかが、それとなくわかるということである。それは視覚的にもそうであるし、聴覚的にもそうである。だいたい、人それぞれ、毎日の生活パターンというものは決まっている。そのため「あの婆さんが農作業を終えて昼寝に帰ってきたな」であるとか、「夜中に」「下の階の爺さんが小便に行っただな」であるとか、それぞれの人の、ほんの小さな息遣いまで自然と伝わってくる。土楼内には、いわゆるプライベートな時間とはほとんどないわけだが、「そもそも人間にとってのプライベートな空間ってなんだったつけ」と考えさせられてしまう。

わたしが住んでいた土楼は、農具を動かす音、動物の鳴き声、爆竹の音、雨音、夫婦喧嘩など、あらゆる「ノイズ」に満ちていて非常に騒々しかった。しかし、いま振り返れば、それらは各自が共同生活を送るなかで響き合う「ホワイトノイズ」であり、平穏な暮らしを続けるための調弦(チューニング)だったのかもしれない。

上: いちばん静かな夜明け前の土楼(2009年10月8日)
下: 朝日が差し込む4階の廊下(2009年5月15日)
(写真はすべて中国 福建省 永定県)



上:日本のスーパーでよく見かけるヨモギ餅。その中身はあんこである(大阪府、2024年)
左:よもぎは日本でも身近なところに生えているから艾板を作るのに便利(大阪府、2024年)

出す。有名な台湾の客家料理のひとつである。艾板は、ヨモギを使った緑色の生地「餅」である。日本のヨモギ餅と見た目は似ているが、食感がやはり少し異なる。艾板はヨモギ餅ほどもちもちしていないくて、ぷにゅん



「客家のあいだに「板一個がご飯三杯」という諺がある。これは、客家の食生活における板の重要性をあらわしている。板は、米を麵や皮、餅などに加工して、さまざまな食材

ヨモギ香る祖母の艾板

范智盈

大阪大学 招聘研究員

台湾で客家料理といえば

と調理した料理の総称である。台湾には、客家料理として知られるさまざまな板がある。よくいわれる「客家米食」とはそのことである。板は、客家の人の日々の日常生活、風習、信仰と密接に関連している。

わたしは台湾北部出身の客家である。祖母の家の台所で、蒸し器の蓋がカタカタと音を立て、香ばしい湯気が立ち上る光景が



客家板の一例で、切干大根と豚挽肉の「餡」。筆者実家の艾板。ほかにもさまざまな塩味・甘口の「餡」がある(台湾、2024年)

としている。客家板が、おもに台湾で栽培された在来の長粒種(インディカ)のうるち米と短粒種(ジャポニカ)のもち米を組み合わせて調理されているからだ。ヨモギはむかしから邪気を払う草として、中国の風土誌に記録される。春にもっとも生長することから、客家はヨモギを摘み艾板を清明節に作って、墓に参ってお供えする。このため、艾板は墓板ともよばれ、祖先と共食することで一年を通じて健康でいられると考えられている。

「在来米粉」のおかげ

かつては、清明節に艾板を作るのは、非常に複雑で手間がかかった。最初に、お米を水に浸して石臼ですりつぶし、圧力をかけて水を切りかたまりにする。それにあらかじめ茹でて刻んで乾燥または冷凍させておいたヨモギを加え、緑色が均一になるまで混ぜて練る。こうしてできた生地を、炒めた切干大根とひき肉などの「餡」を丸く包み、蒸す。今日、一般家庭ではこうした米の下処理にかかる手間は少なくなった。今は既製の「在来米粉」が使用されることがほとんどである。この「在来米粉」は客家板だけでなく、ビーフン、大根餅、肉団子など、多くの中華

台湾の市場で販売される客家板(台湾 桃園市中壢区、2024年)



わたしの記憶にもある。祖母はいつも「板ができているよー!」と叫んでいた。これは週末の午後に訪れる光景であり、わたしにとって特別な時間であった。

艾板は墓板

日本に住んでいても、公園や道でヨモギの香りが漂う春になると、艾板をよく思い

料理において不可欠な材料として使われている。多くの日本や海外の中華物産店でも、台湾の「在来米粉」が客家料理や他の中華料理の製作に必須の材料として販売されている。この「在来米粉」のおかげで、日本でも清明節の時期にわたしも艾板を作ることができる。そして艾板の作り方を教えてくれた祖母のことも懐かしく思い出せるのだ。



日本客家関西崇正会の理事たちが作った「客家米食」(大阪府 梅田、2023年、小林宏至撮影)

客家音楽家と日本

田井みのり

東京都立大学大学院博士後期課程

台湾に行くくと、驚くほどによく日本の音楽を耳にする。降り立った空港で、宿泊先のテレビで、あるいはタクシーで流れるラジオから……。カラオケ店は台湾でも人気があり、数多くの日本の曲が入っている。その背景には、台湾の音楽産業が日本統治期（一八九五〜一九四五年）に始まり、発展してきたことがある。

台湾客家の音楽も日本との関係が深い。一九一四年には、日本蓄音器商会（現日本コロムビア株式会社）が有名な客家音楽家である何阿文（一八五八〜一九二一年）らを東京に招き、八音、山歌、採茶劇など客家音楽のレコードを制作した。これは台湾の音楽が商業化された初の出来事でもあった。



「台湾歌謡の父」鄧雨賢(1906〜44年)
(台湾客家文化発展センター提供)

また当時、日本を介して西洋音楽教育を受けたことで、台湾客家から多くの音楽家が輩出した。なかでも著名なのは「台湾歌謡の父」とよばれる作曲家、鄧雨賢（一九〇六〜四四年）だ。代表曲である「望春風」「雨花」「月夜愁」といった曲は、日本語でもカバーされるほど広く親しまれた。

彼が作曲したこれらの曲は、ヨナ抜き音階からなる。ヨナ抜き音階とは、ドを主音とする長音階（ドレミファソラシ）に当てはめるときに、第四音（ファ）と第七音（シ）を使わない五音音階（ドレミソラ）のこと。中国本土の音楽でもみられるが、日本の唱歌や演歌などの曲で多用されている。台湾の初期の流行歌では特に頻繁に用いられており、日本の影響がうかがえる。

近年では、伝統的な客家音楽に加えて、客家語で歌われる客語流行歌や客語創作歌曲といったジャンルもある。なかには、客家音楽のみならず、日本の演歌の要素を含む曲もみられる。客家音楽文化と日本の関係は、現在においても続いているのである。



右上：苧林公学校で鄧雨賢が使用していたピアノ
右下：鄧雨賢が動めた苧林公学校で使用していた日本統治時代の音楽の教科書
(写真はどちらも台湾 新竹県、2023年)

日本人の祖先は客家？

奈良 雅史

民博准教授

「秦の始皇帝が霊薬を探すためにたくさん若者を日本に送って、それが日本人の祖先になったって話があるけど、それってほんと？」。細かい部分に差はあるものの、中

国で調査をしていると、ときどきこうした質問を受けることがある。すると、「その前から日本には人が住んでいたから……」などと説明しなければならぬ羽目に

なる。

ただ、この話はまんなら作り話というわけでもない。司馬遷の『史記』に、徐福という方士（医師や天文、神仙術などの専門家の話がある。彼は秦の始皇帝の命を受け、三〇〇〇人の若い男女と技術者を連れ、不老不死の薬を求めて東方に出航したというのだ。徐福たちがここに辿り着いたのかについては諸説あり、韓



徐福公園内の徐福像(和歌山県 新宮市、2023年)

国や日本、さらにはアメリカ大陸という説まである。日本では北海道から鹿児島まで全国二〇カ所以上で徐福伝説が伝えられてきたという。これらの地には徐福を先進的な技術をもたらした存在とみなし、神として祀るところもある。興味深いのは、日本の客家のあいだでは、徐福が客家とみなされ、崇拜の対象ともなってきたことだ。それは一四世紀、元代に活躍した文人が客家と徐福の関係をうかがわせる詩を残したことに由来するそう

だ。そうすると、客家は日本人の祖先ということにもなるだろうか。徐福は客家なのか。その真偽は定かではないが、客家と日本、そこには意外と浅からぬ縁があるのかもしれない。



上：徐福上陸の地として伝えられる波田須(はだす)町。徐福の里ともよばれる(三重県 熊野市 波田須町、2023年)
下：新宮市の徐福公園。徐福像や徐福の墓などがある(和歌山県 新宮市、2023年)



ニャンジウ
娘酒
もち米で醸造した客家の地酒。紅麴米とともに発酵させる。土楼などでも多くみられ、英語ではHakka Wineとよばれる(中国 江西省、K)

甘くてまろやか
祝い事に欠かせない

11



クージアシャオチャオ
客家小炒
台湾客家料理の定番。豚肉と水で戻したスルメイカ、硬い豆腐のような豆干(とうがん)、セロリなどを炒めた料理。日本でも代表的な客家料理として登場し始めている(台湾 新竹県、2023年、N)

イカと豚が
手に手をとって表彰台へ



レイチャ
擂茶
茶葉を穀物や他の食材とともにすりつぶし、湯を入れて食べるお茶。客家だけでなく中国南部の各地にあるが、台湾や日本では客家のものとして知られている(中国 福建省 寧化県、2015年、K)

張飛が絶賛(!?)
幸せの食べるお茶

7



義民祭で麻糬を食べる(台湾 新竹県、2023年、N)

どこかなつかしい、
素朴なお餅

12

マーシュ
麻糬
もち米から作る台湾のお餅。日本のお餅よりやわらかい。「糍粑(ツーパー)」とよぶ地域もある。ピーナッツの粉をまぶしたり、アズキを入れたり、油で揚げたり。進化するスイーツ(台湾 新竹県、2023年、N)



パンツァイ
盆菜
香港の典型的な客家料理。神様の祭りのときなどに一緒に食べる。南方にきた皇帝がおなかをすかせていたとき、接待好きな客家がふるまったのが盆菜だったのだという。今や宴会料理の定番となっている(香港 新界、2023年、K)

これはもはや豪華食材の
メリーゴーランド



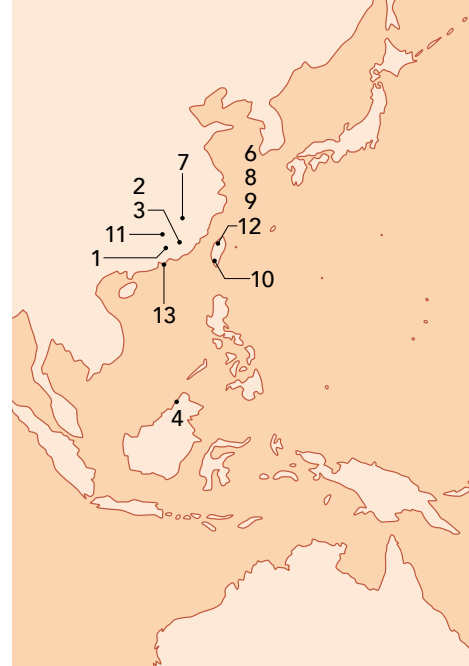
バンティアオ
板條
台湾南部の代表的な客家料理。米でできた平たい板をスープに入れたり、ソースを絡めたり。多彩な食べ方がある(8・9:台湾 新竹県、2023年、N)(10:台湾 屏東県、2019年、N)

ツルツルでやわらかい
初めての食感



9

10



なになにに、
客家料理について知りたい?
じゃあ、食べるのが早い。
香港や台湾はもちろん
日本の中華街にも
いや、タヒチにもある。
客家の人たちが運ぶ味は
いつでも進化形!

はっか味

越境する客家料理

5



ドンジャンイエンジュイジー
東江塩焗鶏
香港や広東東部の代表的な客家料理である鶏の塩蒸し焼き。香港では塩水鶏ともよばれる。日本の横浜中華街でもこれを看板料理にしている店がある(中国 広東省 河源市、2010年、K)

塩につつまれて
旨味マシマシ



ニャンドウフ
釀豆腐
広東および世界各地における定番客家料理のひとつ。豆腐のなかに豚肉を入れて蒸す。客家が中原(中国北部)から南下したとき、餃子を作ろうとしたら皮がなかったので、豆腐で代用したら、この料理になったのだという(中国 広東省 梅州市、2016年、K)

餃子のつもり?
ところ変われば
姿も変わる



ボルネオ島では巨大化
(マレーシア コタキナバル、2012年、K)



タヒチでは原型をとどめていない
(タヒチ パペーテ、2017年、K)



メイツァイコーロー
梅菜扣肉
広東および世界各地における定番客家料理のひとつ。科挙に合格した客家が宮廷でこの料理を作っていたら、皇帝にうけて広まったのだとか。近年、日本の中国料理店や台湾料理店でも提供されるようになっている(中国 広東省 梅州市、2016年、K)

トロトロのお肉に
梅菜の風味がベストマッチ

みんなぱく 回覧板

イベントの詳細・予約はこちら

みんなぱくホームページ
催し物のご案内
<https://www.minpaku.ac.jp/event/>



各イベントについて、
詳しくはホームページを
ご覧ください。

みんなぱく創設50周年記念特別展

吟遊詩人の世界

各地を広範囲に移動し、詩歌を語り語り、世界を異文化いかにする吟遊詩人のパフォーマンスやそれらを成立させる物質文化を紹介いたします。

会期 9月19日(木)～12月10日(火)
会場 特別展示館



アズマリ(エチオピアの吟遊詩人)が酒場で即興詞を復唱する様子

みんなぱく創設50周年記念企画展

客家と日本

華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史と日本の交流の歴史は、一世紀半におよびます。本展示は、客家の活動をとおして日本と中国大陸と台湾の関係史を描き出します。

会期 9月5日(木)～12月3日(火)
会場 本館企画展示場



台湾の客家居住地にある三合院

関連イベント

みんなぱく映画会

日時 9月9日(日) 13時30分～16時
15分(3時開場)

会場 みんなぱくインテリジェントホール (講堂) (定員350名)
上映作品 「一八九五」(2008年)
参加費 要展示観覧券(一般580円)
※イベント参加費は不要

解説 河合洋尚(東京都立大学 准教授)
司会 奈良雅史(本館 准教授)

※事前申込制(本人を含む2名まで)、先着順
※事前申込の方へ、当日12時30分から本館2階会場前にて展示観覧券を確認後、入場整理券を配布します。

※受付期間中に定員に満たない場合のみ当日参加を受け付けます。

【申込期間】

友の会先行受付
8月2日(金)まで 定員70名

お申し込み先

国立民族学博物館友の会
(千里文化財団)

一般受付

8月5日(月)～9月4日(水)
ワークショップ

日時 9月16日(月・祝)、23日(月・祝)
9月16日(月・祝)、23日(月・祝)

※各日2回実施
10時45分～12時45分(受付開始10時15分)・14時15分～16時15分(受付開始13時45分)

会場 (本館企画展示場ほか) (定員各回10名)

講師 松本学(松茶商店 代表)
河合洋尚(東京都立大学 准教授)

対象 奈良雅史(本館 准教授)
小学生以上(小学生は保護者もご参加ください。要参加費)

参加費 500円(大学生・一般の参加者は要展示観覧券)

※事前申込制(本人を含む2名まで、8月8日(木)10時から定員に達し次第受付終了)、先着順



客家擂茶(松茶商店提供)

みんなぱく創設50周年記念研究公演

アリアン時の回響つたは

——在日コリアン音楽のこれから

日時 8月25日(日) 14時～16時30分
(13時30分開場)

会場 みんなぱくインテリジェントホール (講堂) (定員400名)

演奏 李政美・安聖民・河栄守・金栄実・梁聖暉ほか
高正子(大阪コリアタウン歴史資料館 館長)

司会 福岡正太(本館 准教授)

※事前申込制(本人を含む2名まで)、先着順

※事前申込の方へ、当日13時から本館2階会場前にて展示観覧券を確認後、入場整理券を配布します。

※受付期間中に定員に満たない場合のみ当日参加を受け付けます。

【申込期間】

一般受付 8月21日(水)まで
友の会先行受付は終了しました。

みんなぱくミュージアムパートナーズ(MMP)のワークショップ

点字体験ワークショップ

日時 8月10日(土)、9月14日(土)
12時～15時30分(最終受付15時)

会場 本館1階エントランスホール
※申込不要 参加無料(当日随時受付)

MMP20周年記念ワークショップ

はじめの1歩 やってみよう！ミラー刺繍

日時 8月11日(日)11時～16時
(最終受付15時30分)

会場 本館1階エントランスホール
対象 6歳以上(5歳以下は保護者同伴)

※申込不要、参加無料(当日随時受付)

手話を覚えて、はなまるをゲットしよう！

日時 8月12日(月)11時～16時
(最終受付15時30分)

会場 本館1階エントランスホール
※申込不要、参加無料(当日随時受付)

受賞

「モンゴル国北極星勳章」を受賞

本館の島村一平教授が、モンゴル国の文化振興やモンゴル研究の発展、およびモンゴル人研究者の育成に貢献したことにより、「モンゴル国北極星勳章」を授与されました。モンゴル国北極星勳章は、モンゴル国が外国人に授与する最高の国家勳章です。

8月17日(土)、18日(日)の来館についてのご案内

8月17日(土)、18日(日)は万博記念公園にて大規模イベントが開催されるため、来館方法が通常とは異なります。詳細はみんなぱくホームページをご覧ください。この



迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

巡回展

ユニバーサルミュージアム

——さわる！触の大博覧会

直方巡回展2024
会期 9月16日(月)迄まで
会場 直方谷尾美術館(福岡)

主催 公益財団法人直方文化青少年協会
共催 国立民族学博物館



驚異と怪異

——想像界の生きものたち

本館で2019年に開催された特別展がこの秋、北海道に巡回します。開催地域ならではの展示品も加わり進化する「驚異と怪異」展を観にぜひウボホイへ。

会期 9月14日(土)～11月17日(日)
会場 国立アイヌ民族博物館 特別展示室(北海道)

主催 国立アイヌ民族博物館、国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団



みんなぱくゼミナール

会場 みんなぱくインテリジェントホール(講堂)
参加無料
※事前申込制、先着順(定員320名)
※当日参加申込も可能(定員80名)
●8月以降、当日12時30分より入場整理券を配布します

第548回
8月17日(土)13時30分～15時(13時開場)
ネパールの「吟遊詩人」
——映像音響資料の当事者との共有
講師 南真木人(本館 教授)

【申込期間】
▶一般受付 8月14日(水)まで
▶友の会先行受付は終了しました。
※当日のご来館方法にご注意ください。

第549回
9月21日(土)13時30分～15時(13時開場)
世界を異化する歌と語り
——エチオピアの吟遊詩人
講師 川瀬慈(本館 教授)
エチオピアの地域社会で活動する吟遊詩人の歌は、近年エチオピアが経験した社会や

8月11日(日)14時30分～15時15分
みんなぱく所蔵のヒエログリフ碑文を読む
——ロゼッタストーンには何が書かれているのか
話者 永井正勝(本館 特任教授)

本の紹介

諸昭喜 著
『産後の(風)——病いの語りからみる韓国社会とジェンダー』
春風社
3,960円(税込)

韓国の民俗病「産後風」の語りから、この病いが女性の心理的・肉体的苦痛を歴史・文化的背景とともに構築し、韓国女性にとって「苦しみ」のイデオロムとして共有され続けていたことを多角的に論議します。



政治の変動、および庶民の心情を映し出す鏡です。これらの歌について私が撮影した映像とともに紹介します。



聴衆による即興詩を復唱する酒場の歌手(2022年)

【申込期間】
▶友の会先行受付
8月8日(木)～16日(金)(定員80名)
▶お申し込み先
国立民族学博物館友の会(千里文化財団)
▶一般受付 8月19日(月)～9月18日(水)

みんなぱくウィークエンド・サロン

会場 本館展示場(ナビひろば)
※定員なし(ご自由に参加いただけます)
※申込不要、要展示観覧券(一般580円、イベント参加費は不要)

友の会 講演会・セミナーへのお申し込みは友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

お問い合わせ先 国立民族学博物館友の会(公益財団法人千里文化財団)
電話 06-6877-8893 (9時～17時、土日祝を除く) FAX 06-6878-3716
E-mail minpaktutomo@senri-f.or.jp https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



友の会講演会

参加形式①本館第5セミナー室(定員90名)
②オンライン
友の会会員：無料
一般(会場参加のみ)：500円
※事前申込制、先着順
※会員は会場参加の場合、事前申込不要

第551回 8月3日(土)13時30分～15時
古代エジプトの書字文化
——「刻む文字」と「書く文字」の世界
講師 永井正勝(本館 特任教授)
古代エジプト文明の栄華を支えたのは文字の存在でした。古代エジプトの文字は、神

や王に捧げるべく石材などに刻まれたヒエログリフと、書記が記録のためにインクと筆で記したヒエラティックとに大別されます。このように古代エジプトでは「刻む文字」と「書く文字」とが併存されていたのです。本講演ではそれらの文字の違いを紹介するとともに、民博所蔵のヒエログリフ碑文を解説します。

※講演会終了後、講師とともに本館展示にて見学会をおこないます。(要会員証もしくは展示観覧券)

第552回 9月7日(土)13時30分～15時
台湾客家と日本
——20世紀前半を中心に
講師 河合洋尚(東京都立大学 准教授)

1895年に台湾が日本の領土となった後、現地の客家(はっか)社会は大きく変化しました。台湾の客家地域では新たな産業が導入・促進され、人々の移動が加速し、日本風の地名に改称されるなど、その景観は移り変わりをみせていきます。他方で、客家の子弟は日本語教育を受け、日本の技術や文化を学んでいきます。日本へ留学や移住をする客家も増えます。20世紀前半を中心に、台湾客家と日本の知られざるつながりを解説します。

※講演会終了後、講師とともに企画展にて見学会をおこないます(要会員証もしくは展示観覧券)



弦楽器(ギジャク)

標本番号 | H0277528

地域 | ウズベキスタン共和国

展示場 | 中央・北アジア展示場

みんなシアターでは、「トルクメニスタンの楽器ドゥータル」(番組番号7060)が視聴できる。ギジャクの演奏場面も収録されているので、実際の音色を映像で観て(聴いて)みてはいかがだろうか。



◆ 推しコレポイント ◆

いちばんの推しのポイントは、もちろん音色そのもの。展示場でそれを聴けないのは残念ですが、きれいに装飾された可愛い丸い胴を見ると、その哀愁漂う音色が耳によみがえってきます。



哀愁漂うウズベキスタンの音色

寺村 裕史 民博 准教授

フレットがあってほしい

わたしはヴァイオリンが弾けない。弾けないどころか、触ったこともないし、演奏してみたいと思ったことがない。なぜなら、フレットがないから。フレットとは、ギターやマンドリンなどの弦楽器だと付いている、音程を変えるために弦を押さえる場所を示す突起のことである。ギターは、フレットがあるのでわたしにとってはとっつきやすく、若かりしころに練習して多少は弾けるようになった。しかし、ヴァイオリンはどこを押さえれば何の音が出るのかがわからず、ハードルが高く感じられたのだ(勝手な先入観です)。

さて、本稿で紹介するわたしの「推し」の資料は、そんなヴァイオリンと同様に、弓で弦をこすって音を出すウズベキスタンの伝統楽器「ギジャク」である。もちろん、フレットはない。であれば、わざわざギジャクを推さなくとも、そのすぐ隣に展示してあるタンブルなどギターに近い楽器をとりあげればいいのに、と思われるかもしれないが、そこは自分が弾けないからこそその憧れというか、単に天邪鬼^{あまのじゃく}なだけである。

「むーん」とした音

みんなくで展示されているギジャクは、丸い木製の胴部に革が張られ、革の周囲には螺鈿^{らでん}のような装飾が施されている。弦は四

本で金属製だが、伝統的には馬の尻尾や羊の腸などが使われていたらしい。また弓毛も、馬の尾の毛が使われることが多いようだ。胴に張られた革は、一般的には羊の皮が用いられる。

弦楽器コレクターの知人に聞いたところ、ヴァイオリンは胴がすべて木でできており、「乾いた」「明るい」音色が特徴であるのに対し、ギジャクは「むーん」とした感じの、ヴァイオリンに比べると「湿った」音が出るのが特徴とのこと。この、胴が革張りだからこそ出る哀愁漂うむーんとした音が、わたしがフィールド調査で毎年訪れるウズベキスタンの伝統音楽に欠かせないギジャクの、「推し」ポイントである。楽器の素材・作り、弦や弓の素材、それらで奏でられる音色の違い、まさにこういったところに民族的な特色が出るともいえるだろう。



サマルカンドの楽器店でギジャクを試奏している様子(ウズベキスタン、2023年)

ビデオテープをきわめる！

くろだ けんじ
黒田 賢治 民博 助教

一九七〇年代の近未来感

本館二階の中央パティオ「未来の遺跡」を取り囲む回廊部分をインフォメーション・ゾーンという。そこにビデオテープがある。一九七〇年代の近未来感漂わせるチューブ型のブースがそれである。その内容は、日常生活空間に広がる食やモノ作りから、特別な日の儀礼まで多岐にわたる。なかには、一九七七年の開館以前に撮影されたものもあり、世界各地でこんなものを撮影していたのかと驚く貴重な映像もある。

ブースで見られるのは、多くが数分から二〇分未満の短編番組であり、ブースで見るとちょうどよい長さである。展示場を回遊中にひと休みしながら視聴するのにもちょうどよい。だが、長時間の番組をブースで見るといのは少し厳しい。でも、安心してください。今のみんなくには「シアタールーム」があるのです。

大型スクリーンでゆったりと

コロナ禍前に民博に訪れたときであれば初耳かもしれない。二〇二二年三月末にインフォメーション・ゾーン内に「みんなくシアター」がオープンした。四〇名まで利用可能な「シアタールーム1」では、適宜変更しながら、スケジュールに合わせて長編番組を常時上映している。二〇〇インチを超える大型スクリーンで見られる映像には迫力がある。少人数で利用できる「シアタールーム2〜5」は、長編番組のなから希望に合わせて

視聴できる。ソファに座っての視聴はなかなか快適である。

授業で視聴するには

ビデオテープの番組を館外で教育に利用したいということもある。教育・行政機関や研究者であればという条件はあるが、「貸出可能」マークのある番組は教育・研究目的用に館外貸出サービスがある。来館する時間がない場合には、ビデオテープデータベースの館外利用の項目で貸出可能作品を確認することもできる。映像資料の利用については、遠慮なく民族学資料共同利用窓口にお問い合わせいただきたい。

以前はDVDなどの受け渡しが必要であったが、近年ではDVDだけでなくストリーミングでの視聴にも対応している。館外貸出サービスもアップデートしているのだ。



200インチ超の大型スクリーンで臨場感たっぷり「シアタールーム1」



ソファでゆったり「シアタールーム2〜5」
(写真はどちらも2022年、奥村泰之撮影)



民族学資料共同利用窓口 電話 06-6878-8213

月～金、9～12時、13～17時(土日祝、年末年始を除く)

民博が所蔵する標本資料、文献図書資料、映像・音響資料、民族学研究アーカイブズ資料の利用についてお答えします。教育・研究目的のストリーミング視聴についてもこちらへ。



ビデオテープデータベース

民博にあるビデオテープと同じ方法で番組を探したり、検索語を入力して探したりできます。見たい番組を見つけたら、民博のビデオテープブースやシアタールームでご視聴ください。

ヒマラヤを疾走する乗合ジープ

ふるかわ ふかち
古川 不可知

九州大学 准教授

ネパール・ヒマラヤの険しい山岳地帯に暮らす人びとにとって、車道の到来は悲願である。それは、不便で「遅れた」山の生活を「発展」させてくれるものと考えられているのだ。

エベレストの麓に位置する、トレッキング観光の盛んなソルクンプ郡では、二〇一五年のネパール大地震のあと急速に車道の建設が進んでいる。現在では、この地域の玄関口である飛行場の村ルクラのすぐ近くまで、首都から車でたどり着けるようになった。

車道が開通するとまずバイクが走り出し、やがて四輪駆動の乗合ジープがやってくる。ジープ（現地ではジブと発音される）は、かつては数日ばかりだった麓への旅を、一〇時間足らずにまで短縮した。

もっとも、ヒマラヤの車道は、日本のわたしたちが想像するような平らで真っすぐな車道とはかなり様相が異なっている。それは、人と家畜が通れるだけの従来の山道と、

道幅以外の点ではさして変わりない。重機で山腹を削り、大きな障害物を取り除いて車両さえ通れるようにすれば、もうそれは立派な車道なのである。

したがって、ジープによる移動は、ただ座ったまま安楽に過ぎ去る時間というには程遠い。ジープは無数の段差や岩を乗り越え、小川を渡り、斜面をジグザグに切り返して上り下りし、激しく車体を揺らしながら山間部を進む。乗客たちは、ドアや天井に頭をぶつけないよう、常に次の衝撃に備えて身構える。エアコンなどない車内には窓から埃ほこりっぽい風が吹き込み、密着した隣の人々の汗がじんわりと染みってくる。車内では能天気なネパールポップスを大音量で流し、外へはけたたましくクラクションを鳴らしながら、追い越し追い越されつつジープは崖道を疾走してゆく。

車道の到来は村の景観も一変させること

となった。沿道の森は切り払われ、細かった山道は砂埃の舞う未舗装の路面となり、新たな車道に沿って商店の移築も進んでいる。他方で、トレッキング客を相手にガイドやポーターとして収入を得ていた若者たちの一部は、外国人を乗せて素通りする車両を見て観光産業の将来を悲観し、ジープ運転手への転業を模索するようにもなっている。ジープは沿道の人びとの期待と不安を乗せ、今日も山中をガタガタと走ってゆくのである。



険しい山の斜面を行く乗合ジープ(ネパール ソルクンプ郡、2023年)

だって
調査だもの

9・11午前ペンタゴン

たなかまさかず
田中雅一 国際ファッション専門職大学教授



アメリカではトラブル続き

二〇〇一年八月末から二週間の予定でアメリカ合衆国を訪問した。訪問先は、西海岸のサンフランシスコ、

サンディエゴ、中西部のブルーミントン、そして合衆国の首都ワシントンD・Cである。各地でトラブルが発生し、忘れられない調査となった。例えばサンディエゴでは、人間のサ

イズを無視した規格外の都市設計のため(なにせ道路幅が異常に広い)、街を歩いているうちに気持ちが悪くなって寝込んでしまった。次にシカゴ経由で向かったブルーミントンは、旅行会社の手配ミスで目指していたのとはまったく異なる同名の田舎町だった。着いて初めて気づいたときにどれだけ焦ったことか。トンボ返りでシカゴに戻り、なんとかインディアナポリス国際空港に到着日付が変わる頃に予約していた大学の宿泊施設に投宿した。

ワールドトレードセンター、そして：ワールドトレードセンター、そして：

九月一日は、ペンタゴン(国防

総省)で関係者に会う予定だったため、七時半ごろに電話をしてわたしのアポを確かめようとした(軍人の勤務は朝が早い)。ところが残念なことにその日は会えそうにないという。このため、食堂で朝食を一人でとっていると、突然たくさんの方が食堂に入ってきてテレビをつけた。と、ニューヨークにあるワールドトレードセンターの燃え盛る映像が目

に飛び込んできたではないか。ワールドトレードセンターに続き、ペンタゴンにも飛行機が突っ込んだ。アポがとれていたなら、今ごろわたしもあの場所に居たはずだ。そう思うと、安堵の気持ちと居合わせなかったという悔しい気持ちと交じりあった複雑な気分になったが、現実離れしすぎているせいか不思議と



9.11とならんで、アメリカ国民に大きな傷を残したベトナム戦争の戦没者慰霊碑(アメリカ合衆国 ワシントンD. C.、2001年9月10日)



長年にわたって在外米軍基地の遠隔地教育を担ってきたメリーランド大学ユニヴァーシティ・カレッジ(UMUC)、半旗が掲げられている(アメリカ合衆国 メリーランド州アデルフィ、2001年9月12日)

ペンタゴンに隣接するアーリントン国立墓地。多くの戦没者やテロの犠牲者が眠る(アメリカ合衆国 ヴァージニア州アーリントン、2001年9月9日)



恐怖心はわかかなかった。直後から最寄りの駅も封鎖され、もちろんアポなどすつ飛んでしまった。予約していた帰国便もキャンセルとなり、いつ帰国できるかもわからない。しかし、ワシントンD・Cは意外に平穏を保っていた。閉館になってもおかしくないはずの議会図書館が開いていたため、連日そこに通って時間を潰した。

空港にて

そうこうするうちに、帰国便が出るという連絡が航空会社から届いた。荷物検査が厳しかったため、通常の二時間ではなく四時間前に空港に来いという。このため、当日一時出発の飛行機に乗るために六時ごろに空港に着いた。ところがまたもキャンセルになってしまふ。せっかくなので早く起きて、ホテルのチェックアウトを済ませてやってきたのに……とがっかりしていると、七時発なら乗れるとのこと。はあ? 一時間前なのに大丈夫なんか? と呆れたが、なんとか予定より一週間遅れの九月二〇日に帰国の途に就くことができたのである。



9.11直後も何事もなかったかのように開館していた米国会議図書館(アメリカ合衆国 ワシントンD. C.、2001年9月15日)

9・11が変えたもの

あれ以来、世界情勢は大きく変化し、首謀者のビン・ラディンも同時多発テロから一〇年後の二〇一一年五月に米軍によって殺害された。しかし、テロで愛しい人々を失った遺族の悲しみが癒されたわけではない。遺族だけではなく、あの場にいた人々、繰り返し放映された映像を見た多くの人たちのなかにも、PTSD(心的外傷後ストレス障害)で苦しむ人がいるはずだ。その後わたしが、軍隊からトラウマの研究に舵を切った遠因には、この9・11の経験があったのである。

ロンドンのユダヤ人街でのひとり飯

なかにし きょうこ
中西 恭子 津田塾大学 特任研究員

ロンドンでのアーカイヴ調査を大学院生以来続けている。ユニヴァーシティ・コレッジ・オヴ・ロンドン構内の古典学研究所図書館とウォーバグ研究所図書館に加えて、大英図書館も回れば古代史から受容史までの西洋古代宗教関係の文献が揃うのはありがたい。

ゴールドアズ・グリーン¹の自炊できるアパートメントを定宿にしている。調査先図書館最寄りの駅から地下鉄に15分ほど乗って地上駅で降りる。ロンドン屈指のユダヤ人街で、静かで荒れていない。空が広い。空気も澄んでいる。大通りにはユダヤ教やイスラームの食物規定に対応した食材店・料理店やユダヤ教用品店が軒を連ねる。ユダヤ系パン屋ではサンドウィッチを買うラビ(ユダヤ教指導者)の姿も見かける。お祝い事用のデコレーションケーキの広告も鮮やかだ。金曜日の夜から土曜日の昼間にはシャバット(安息日)で街が静まりかえり、土曜日の夜には料理屋が賑わう。デリに集ってお喋りに興じる黒装束の若者たちの姿に、超正統派ユダヤ教徒の青春をかいまみる。

秋や早春の夜に到着するとゴールドアズ・グリーン¹の表通りは暗い。宿に荷物を置いてから、深夜営業の食料品店で水と牛乳とチョコレートがけダイジェスティヴ・ビスケットと林檎を、パン屋でガラッハ(ユダヤの伝統的な菓子パン)を買う。一週間分の食材は翌朝買い出しに行く。ゴールドアズ・グリーン北側の住宅街まで歩いてみる。表通りにはヨーロッパ・西アジア・南アジア各地から輸入された食物規定対応食材を豊富に取りそろえた食

料品店もあれば、生鮮食料品に加えてスパイスや惣菜も揃うトルコ系食料品店も、テスコやセインズベリーやマークス・アンド・スペンサーやウェイトローズといったスーパーマーケットチェーンも揃う。日本では高価な食材が手の届く値段で眼前に並ぶ。食材には困らない。料理の腕が鳴る。

イギリスのEU離脱後も活気があるのは移民の店だ。ゴールドアズ・グリーン¹ではトルコ料理屋と食材店を経営するリュキアグループとユダヤ系デリ、ピタが好きだ。照明もあたたかくて店構えに包容力がある。中東の豆料理、ホンモスとファラーフェルを持ち帰り用に包んでもらうこともある。大都会に根を下ろす気概にふれたくて、実質ある食事をいただく。



ユダヤ系デリ、ピタのホンモスをのせたパスタ(2018年)



左下:ピタのお持ち帰り用メニュー(2018年)

右下:トルコ料理屋リュキアのディナー(2023年)

(写真はすべてロンドン ゴールドアズ・グリーンにて撮影)

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
電話 06-6876-2151

発行人 山中由里子
編集委員 樫永真佐夫(編集長) 河西瑛里子
黒田賢治 中川理 奈良雅史 松本雄一
制作・協力 公益財団法人 千里文化財団
印刷 株式会社 研文社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係
にお願いします。

この雑誌は、環境に配慮した工場で、再生産可能な大豆油由来のインク、FSC®認証材および管理原材料から作られています。また、読みやすくするために、色づかいやレイアウトなどに配慮しています。



『月刊みんぱく』は 国立民族学博物館の広報誌です。

世界の文化とみんぱくの展示、研究者の活動について紹介しています。本誌は定期購読のほか、友の会会員の方には毎月お届けします。

『月刊みんぱく』定期購読

本誌を1年間お届けいたします。年間とおして、いつからでも始められます。



お問い合わせ

国立民族学博物館友の会

みんぱくの活動を支援し、積極的に活用するためにつくられました。本誌送付のほかにも、各種催しなど、さまざまなサービスがあります。

定期購読、友の会については国立民族学博物館友の会(千里文化財団)までお問い合わせください。

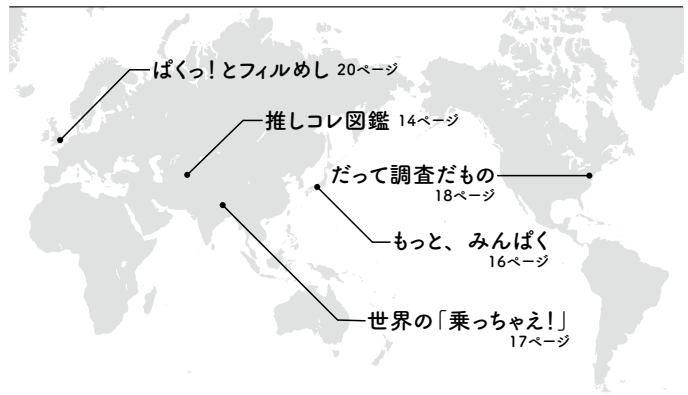
電話 06-6877-8893(平日9:00~17:00)

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



友の会

今月号の地図



編集後記

2200年以上前に中国から不老不死の薬を求めてやって来た客家の徐福一行が日本人の祖先!? しかもその上陸地は神武天皇と同じく熊野なんや。む、む、む……客家ってワンダー!

客家文化といえば円楼、というイメージが中国では観光化のなかでできあがっている。小林宏至さんによると、そんな円楼でのくらしを特徴づけているのは「ノイズ」。そういえば「今こそ日本に円楼住宅を!」と仰天提案を臆さない與那覇潤さんの「巻頭エッセイ」の核心も、まさにノイズとのかかわりにあった。ヒマラヤにまで乗合ジープがノイズをま

き散らして疾走し、地球はますます人だらけ、ノイズだらけ。いっぽう、「はっか味」(10~11ページ)にある料理写真をひとつひとつ見つめてみると、今にも聞こえてきそうな店内のノイズはなんだか心地よい。企画展「客家と日本——華僑華人がつむぐ、もうひとつの東アジア関係史」は9月5日(木)から開催。もうひとつの日本が見えてくる!(樫永真佐夫)



次号の予告 9月号

特集「吟遊するヘテロトピアン」(仮)

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 電話 06-6876-2151

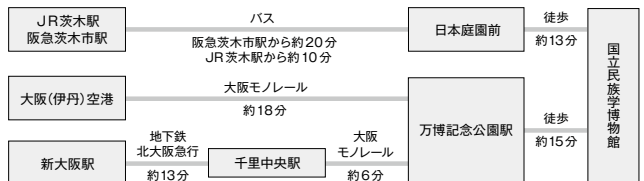
開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)

休館日 毎週水曜日(水曜日が祝日の場合は直後の平日)
年末年始(12月28日~1月4日)

観覧料 一般 580円/大学生 250円/高校生以下 無料
特別展の観覧料金は、その都度、別に定めます。
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

主要ターミナルからのアクセス

本館までの交通手段は次の方法が便利です。



みんぱくホームページ

<https://www.minpaku.ac.jp/>





国立民族学博物館友の会機関誌

『季刊民族学』189号 ISBN 978-4-915606-92-2

特集 先住民のデジタル世界

—ありふれた日常実践と、あらたなる挑戦—

躍動する先住民の
デジタル世界
平野智佳子

SNSを通じた
アボリジナリティの形成
栗田梨津子

歌と踊りのデジタルアーカイブ
土井冬樹

ロサンゼルスへのメキシコ移民を
つなぐゲラゲツァ
山越英嗣

オンライン化で変わる
先住民移住区の暮らし
額田有美

クルージング・ザ・インターネット
渡辺浩平

先住民にとってあらたな脅威か、希望か？
日々の暮らしやこれからの社会を変える、
先住民コミュニティのデジタル世界の可能性を探ります。

羽根飾りの冠に弓矢を構え、
スマホで繋がりドローンを操る
神崎隼人

国境係争地でスマホを開く
長岡慶

ネット コタン アンカラ
(ネットのまちをつくる)
北原モコットウナシ

ミュージアム
・ショップ
にて販売中

定価

2,750円(税込)

友の会会員価格

2,200円(税込)